

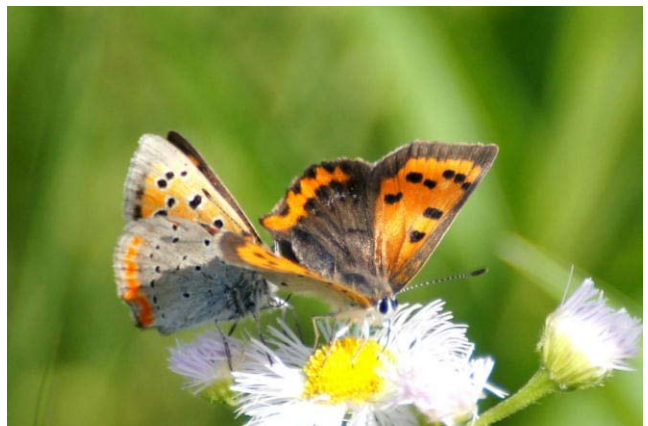
牛久：学校周辺に見る自然

第5号 ひたち野うしく小学校

2018年5月20日発行

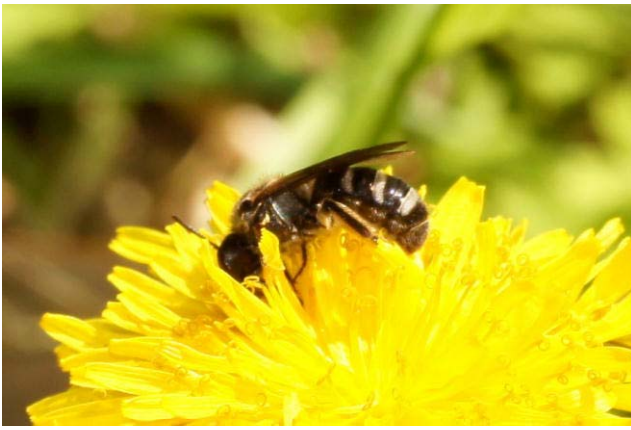
＜ 春のみずべ公園で生きもの観察 ～①花に来る虫たち・キク科＞

雨天で気温低めの4/24にひたち野うしく小4年1組と、翌週、晴天で暑い5/1に4年2～5組とみずべ公園の春の生きものを観察してきました。今回は、キク科の花に来ていた虫たちを紹介し



蜜や花粉を求めてハルジオンに集まるハチ（上2枚）、モンキチョウ（左中）、ベニシジミ（右中）、コアオハナムグリ（左下）。葉の汁を吸うアブラムシを食べるナナホシテントウ幼虫（右下）。

まずは、ハルジオン。モンキチョウやベニシジミなどのチョウやハチ、コアオハナムグリ、ハナアブ類が、蜜や花粉を求めてやってきます。葉や茎につくアブラムシを食べに、テントウムシも来ます。花のかげにかくれて、えものを待ちぶせするクモもいましたね。ハルジオンは北アメリカからやってきた植物で、もともとは花壇などで育てられていたそうです。こういう植物を「帰化植物」といいますが、今では全国に広がっています。みずべ公園でも、たくさん見られますね。



蜜や花粉を求めてセイヨウタンポポに集まるハチ（上2枚）、蜜を吸うヤマトシジミ（左下）。花粉を食べるヤブキリ幼虫（右下）。

次は、セイヨウタンポポ。こちらはヨーロッパからの帰化植物で、日本のカントウタンポポはあまり見かけなくなっていました。気をつけて探すと、みずべ公園では両方見られますよ。ここにもハチや、ハナアブ類、ヤマトシジミなどのチョウが来ていました。「バッタがいる」というので見ると、ヤブキリの幼虫でした。キリギリスのなかまで成虫は他の虫をつかまえて食べますが、幼虫は花を食べて育ちます。



タンポポによく似た花は、ブタナ。小さなハチやハナアブ類がよく来ます。見るからにトゲが痛そうなオニノゲシには、アブラムシがびっしりついていました。どちらも、ヨーロッパから来た帰化植物です。

オニノゲシの茎の汁を吸うアブラムシ（左）と、ブタナの蜜を吸うハチ（右）。



オニタビラコ（左）と、蜜^{みつ}を吸うハチ（右2枚）。



オオジシバリ^{みつ}（左上）と蜜^{みつ}を吸うハチ（右上）。ニガナ^{みつ}の蜜^{みつ}を吸うハチ（左下）。ヨモギの葉^はにナナホシテントウの蛹^{さなぎ}（右下）。

最後に、もとから日本にあるオオジシバリやニガナにも小さなハチが来ていました。ヨモギの葉には、ナナホシテントウのさなぎが。秋にもまた、来られるといいですね。 【理科支援員：宮内】